

ホストタウン等における対応について

1. 基本的考え方

- ホストタウンは、日本の自治体と、東京大会に参加する国・地域の住民等が、スポーツ、文化、経済など多様な分野において交流し、地域活性化に活かすとともに、大会後のレガシーとして未永い交流を実現させるもの（登録数436件、自治体数507、相手国・地域数179（10月30日現在））。
- 全国のホストタウンでは直接の交流ができない中でも、SNS等を通じて相手国・地域の選手団等とお互いを励まし合うといった交流が行われており、オンライン交流も活発に行われている。また、選手を応援しようと相手国・地域の言語、文化、料理、国歌などを学び、東京大会での選手の受入れの準備が進められている。
- 東京大会の開催に向けては、選手等の受入れを行うホストタウンが新型コロナウイルス感染症対策を行うことが求められるが、一方で、コロナ禍においても選手等と住民の交流が十分行えるようにしていくことが重要である。

2. 具体的な対応

- 選手等に安心してホストタウンを訪問してもらい、住民にも安心して選手等を迎えてもらうため、選手等の受入れを実施するホストタウンは、感染防止対策をまとめた「受入れマニュアル」を作成する。
- 事前キャンプのみを行う自治体においても、感染症対策の実施が必要であるため、ホストタウンと同様に「受入れマニュアル」の作成を求める。
- 国は「受入れマニュアル作成の手引き」を作成し、ホストタウン等の自治体によるマニュアル作成を支援する。
 - ※国内の大学・企業等で事前キャンプを実施する場合等においても、受入団体が同様にマニュアルを作成して感染防止対策を実施することを求める。
 - ※日本人選手の事前キャンプについても、手引きを参照して、同様の感染症対策を講ずる。
- 「手引き」では、選手等の入国からの経過期間や、大会前・大会後の違いにより、求められる対応が異なることが想定されることから、必要に応じて区分して対策を提示する。具体的内容は、次ページ以降のとおり。
- ホストタウン等及び相手国・地域の間で、マニュアルの遵守について予め合意書を取り交わす。
- 各国NOC・NPCは、ホストタウン・事前キャンプ地を含む国内行程を組織委員会に登録する。
- 組織委に登録された選手等の国内行程や、自治体のマニュアル作成などの準備状況、相手国・地域との合意状況等について、国、組織委、ホストタウン等自治体、都道府県、IOC、IPC、NOC、NPC等で情報を共有する。